第１回アイランドシティ・未来フォーラム

平成２３年７月３０日（土）

【事務局（谷口）】　　それでは、開会に先立ちまして事務局からご連絡申し上げます。私は福岡市総務企画局企画調整部企画課長の谷口と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

委員の皆様におかれましては、本日はご多忙中にもかかわらず、アイランドシティ・未来フォーラムにご出席いただき、まことにありがとうございます。

まず、本日お配りしております、お手元の資料の確認をお願いいたします。まず議事次第、フォーラムの設置要綱、傍聴の注意事項、それから委員名簿、座席表、アイランドシティ・未来フォーラム設置の趣旨、フォーラムのスケジュール案、アイランドシティの現状等について、それからＡ３判のアイランドシティの進捗状況及びアイランドシティ整備事業の流れの資料をお配りしております。

次に、報道関係の皆様、傍聴される皆様には、当フォーラムの円滑な議事進行にご理解とご協力をお願いいたします。カメラ等の撮影、取材は、委員の皆様の自由な発言、議論の妨げとならないよう十分にご配慮をお願いいたします。また、傍聴者の皆様には注意事項をお渡ししております。傍聴席からの発言や拍手はできません。注意事項が守られない場合は退席していただきますので、どうぞよろしくご協力をお願いいたします。

それでは、会議の開催に当たり、髙島市長よりごあいさつ申し上げます。

【髙島市長】　　皆さん、こんにちは。大変お忙しい中、このたびはアイランドシティ・未来フォーラムの委員にご就任いただきまして、ほんとうにありがとうございます。

今日は皆様方、直接アイランドシティに足を運んでいただいて、そしてごらんいただいたと思います。まちづくりエリアでは、まさに理想の住宅というか、こんなところに住んでみたいというような住宅が完成しておりますし、また、みなとづくりエリアのほうの最先端のコンテナとか物流ゾーンもごらんいただいたと思います。

行ってみると、ほんとうにすばらしいと思うアイランドシティなんですが、実際はどういうふうにとらえられているのか、もしくは報道されているのかというと、例えばマスコミはアイランドシティのことを「人工島」と表現するわけですね。もちろん文字数ということもあるかもしれませんが、もう既に１，５００世帯、４，３００人の方が住んでいらっ

しゃるすてきな場所にもかかわらず、嫌がることを知ってか知らずか、人工島という表現になるわけです。これはなぜなのか。やはり福岡市がこれまで計画してつくってきた、これの売却に関する進捗とかが決してうまくいってないからではないかということから、売れていないとか販売はどうなっているんだという話が先行してしまって、何となく福岡全体で足を引っ張っているんじゃないか。

これまで市役所が一人で頑張っていたわけですが、都心にこんなに近い場所に、これだけ未来を描ける場所があるというのは全国探しても全くないわけですから、そういった意味では、オール福岡で、行政だけではなくて産業界の皆さん、それからいろいろな立場の皆さんのご意見を聞いて、みんなで一緒にここに未来を描いていって、そして人ごとではなくて自分事としてアイランドシティを一緒に考えていく。そして売却ありきの話ではなくて、夢をぜひ一緒に話し合っていければと考えます。

例えば、今日ごらんいただいた物流ゾーンは非常に重要だと私自身は思っています。福岡の歴史自体ひもといてみると、海からの歴史というものが、まさにこの博多、福岡の地の発展と直結していると思うんです。実際、福岡市の総生産の４分の１はこの港湾の物流機能から発生しているという試算もあるんですが、こういうことが市民に全く知られていないんですよね。何となく船が行き来しているのが見えるだけと。でも、そういう重要な役割を担っている。

さらに、高速ＲＯＲＯ船という聞きなれない船があるんですが、例えば上海と福岡の間をこの高速ＲＯＲＯ船で結ぶと、物流が航空機並みの速さでできて、かつコストが半分以下、そして環境負荷がとてつもなく低くなる。こんなことができるのは博多だけです。大阪も東京も距離的に無理なんですね。

実際、これから生産人口が減って少子高齢化が進む中でも成長していきたいとなると、成長率が著しく大きいのは、まさに私たちのすぐ近くにあるアジアの都市であって、福岡はアジアからの活力をしっかり取り込んでいくことがこれから非常に重要になるのではないか。そして、物流においても人流においても、大阪、東京にはできない、福岡にしかできないものがものすごくたくさんある。そういった意味では、この港をしっかり生かしていきたいし、また博多区という一つのエリアの中だけに港湾があって、空港があって、ＪＲがあって、そして高速道路に乗ることができる、このまさに福岡にしかできない部分というのを、ぜひブラッシュアップしていきたいと私自身も考えています。

また、まちづくりエリアでは、これまでCO_2ゼロ街区という環境と共生型のまちづく

りを進めてまいりました。ただ、３・１１がございました。今はCO_2とか低炭素というものより、むしろエネルギーが非常に注目を集めているわけですよね。同じスキームの同じまちを売るにしても、売り方の問題で、いろいろ看板をかけかえることで見え方が変わってくる。むしろ中途半端にいろいろなものがあるよりも、これから描くのであれば、例えばエネルギーで言っても、省エネルギーだけではなくて創エネルギー（つくるエネルギー)、もしくはスマートグリッドという形の日本を先駆けるような新しいエネルギーと共生し、そしてそれが低炭素にも環境負荷低減にもつながるようなまちを、今からであればつくることができる。

こんなすばらしいキャンバスを都心の近くに持つことができているのは福岡だけです。そういった意味では、このアイランドシティ、ヤフードーム１００個分の広大なキャンバスに、未来の夢と日本の夢をぜひ自由な発想で描いていただきたいと思います。

どうしてもこれまで行政が進めてきたものというのは、公平性とか平等とかいろいろなものを気にし過ぎて、自由な発想の議論が最初から小さくなっているところもあるかと思います。今日お集まりの皆さんの闊達な意見を最終的に一つの提言としてまとめていただければ、ほんとうに福岡のみならず日本にとってもすばらしい土地になると思っております。

ほんとうにお忙しい皆様にお願いしたわけでございますが、これからの議論、どうぞよろしくお願いいたします。今日はどうもありがとうございます。（拍手）

【事務局（谷口)】　　市長は公務がございますので、これで退席いたします。

【髙島市長】　　では、答申を楽しみにしております。よろしくお願いします。

（市長退席）

【事務局（谷口)】　　それでは、ただいまから第１回アイランドシティ・未来フォーラムを開催いたします。

初めに、未来フォーラムの構成員及び会議の運営についてご説明いたします。

フォーラムの設置要綱第２条に基づき、委員長及び委員は市長が委嘱することとしておりますので、本日、委員の皆様のお手元には委嘱状を置かせていただいております。

また第３条に基づき、会議の運営は委員長が会議を招集し進行に当たりますが、委員長がやむを得ず会議に出席できない場合は、委員長が指名した委員が委員長代理として会議の進行に当たることとしております。

それでは、フォーラムの委員の皆様をご紹介させていただきます。お手元の委員名簿と

座席表をごらんください。委員名簿記載の順番にご紹介いたします。

まず委員長でございますが、東京大学大学院新領域創成科学研究科教授の出口委員にフォーラムの委員長をお願いしております。

【出口委員長】　出口です。よろしくお願いいたします。

【事務局（谷口）】　それでは、委員をご紹介します。

株式会社ＤＬＣ日中ビジネスコンサルティング代表取締役社長の青木委員は、本日ご欠席でございます。

福岡県東警察署長の安藤委員でございます。

【安藤委員】　安藤でございます。よろしくお願いします。

【事務局（谷口）】　富山大学芸術文化学部教授の伊東委員でございます。

【伊東委員】　伊東でございます。よろしくお願いします。

【事務局（谷口）】　福岡県副知事の海老井委員でございます。

【海老井委員】　海老井と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

【事務局（谷口）】　エッセイストの大庭委員でございます。

【大庭委員】　大庭宗一です。よろしくお願いします。

【事務局（谷口）】　株式会社ＪＴＢコミュニケーションズ九州代表取締役社長の小俣委員でございます。

【小俣委員】　小俣と申します。よろしくお願いいたします。

【事務局（谷口）】　社団法人福岡貿易会専務理事の甲斐委員でございます。

【甲斐委員】　甲斐でございます。よろしくお願いします。

【事務局（谷口）】　経済産業省九州経済産業局長の滝本委員は、本日ご欠席でございます。

福岡商工会議所副会頭の土屋委員でございます。

【土屋委員】　土屋でございます。よろしくお願いします。

【事務局（谷口）】　コラムニストのトコ委員でございます。

【トコ委員】　トコと申します。よろしくお願いいたします。

【事務局（谷口）】　社団法人福岡青年会議所理事長の長沼委員でございます。

【長沼委員】　長沼でございます。よろしくお願いいたします。

【事務局（谷口）】　福岡経済同友会代表幹事の貫委員でございます。

【貫委員】　貫でございます。よろしくお願いいたします。

【事務局（谷口）】　　財団法人日本不動産研究所九州支社長の平山委員でございます。

【平山委員】　　平山でございます。よろしくお願いいたします。

【事務局（谷口）】　　株式会社日本政策投資銀行九州支店長の増山委員でございます。

【増山委員】　　増山でございます。よろしくお願いします。

【事務局（谷口）】　　照葉まちづくり協会会長の村田委員でございます。

【村田委員】　　村田です。よろしくお願いします。

【事務局（谷口）】　　アイランドタワー自治会会長の森委員でございます。

【森委員】　　森です。よろしくお願いします。

【事務局（谷口）】　　以上、１７名の委員の方にご就任いただいておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

それでは、これより会議の進行は出口委員長にお願いいたします。

初めに、出口委員長からごあいさつをいただきたいと思います。

【出口委員長】　　皆様、こんにちは。今ご紹介をいただきました、東京大学の出口と申します。

私が現職につきましたのはこの４月からでして、今年の３月末までは九州大学に勤務しており、これまで地元の福岡のまちづくりにもかかわらせていただきましたので、恐らくそういった理由から委員長の指名を受けたのかと思っております。諸先輩方が大勢いらっしゃる中、大変僭越かと思いますが、委員長を務めさせていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。

このフォーラムの趣旨はこの後事務局からご説明があると思いますが、髙島市長のご挨拶の中にもありましたように、アイランドシティは計画し着工してからもう２０年近くがたち、その２０年間で社会情勢や経済情勢も変わり、いろいろな波を受けながら進めてこられたわけです。その間、市長がおっしゃったように、市役所が主導して進めてこられましたが、新しい時代を迎え、またいろいろな時代の境目を迎えるに当たり、更に、オープンな場で幅広く、いろいろな立場、いろいろなご専門の方々からのご意見やアイデアを伺ってまちづくりに取り組んでいきたいということで、この場が設定されたということでございます。

そういう意味では、アイランドシティについて、一般公開の連続した会議で議論するのは、おそらく私が知っている限りでは初めてではないかと思います。皆様から、それぞれのご専門の観点から、あるいは住民として、市民としてのお立場から、ご意見、課題やご

懸念のご指摘、さまざまなアイデア、夢などを忌憚なくご発言いただきたいと思います。

このフォーラムは毎月1回の割合で重ねていくことになりますが、スケジュールでは１２月までということになっております。１２月までに皆様からいただいた意見を集約して、市長に提言としてお渡しすることまでが役割になっております。

私も慣れない進行役ですが、皆様からご協力をいただきながら進めて参りたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

それでは、皆様のお手元にお配りしております会議の次第に基づいて議事に入らせていただきたいと思います。

最初に、このアイランドシティ・未来フォーラムの進め方についてということですが、まずフォーラムの設置の趣旨につきまして、事務局からご説明をお願いします。

【事務局（貞刈）】　総務企画局長の貞刈でございます。どうぞよろしくお願いいたします。私のほうから、フォーラム設置の趣旨につきまして説明をさせていただきます。

アイランドシティの整備事業につきましては、先ほど市長も申し上げましたけれども、本市の都市戦略上非常に重要な事業であります。これまで市役所でも全庁的な推進本部を設置しまして事業の推進に当たってまいりましたが、近年の社会経済情勢の変動など、事業を取り巻く環境は大変厳しいものがあり、今後事業を推進するに当たっては、従来の考え方にとらわれない新たな視点や発想で事業展開を図っていく必要があると認識しているところでございます。

お手元に「アイランドシティ・未来フォーラム設置の趣旨」という資料をお配りしておりますが、設置の背景、まちづくりを進める上での課題、そして検討の主な視点をお示ししております。

まず、フォーラム設置の背景として、アイランドシティにおけるまちづくりが本格化しましてから、平成１９年度まではほぼ計画どおりに土地分譲を行ってまいりましたが、平成２０年度のリーマンショック以降、事業者における資金調達の厳しさや企業ニーズの変化などから、計画どおりに進めることが難しくなっている状況がございます。

まちづくりを進める上での課題は、こうした厳しい経済状況や土地所有に対する意識が変化したことなどにより土地の分譲が進んでいないこと、それからまちづくりのコンセプトをより具体化することで土地の付加価値を高め、投資意欲を喚起していくこと、あるいは企業ニーズに対応したより柔軟な立地促進策が求められていることなどが課題として挙げられるのではないかと考えております。

こうしたことから、フォーラムの中で委員の皆様からいただきたいご意見、ご議論といたしましては､アイランドシティ全体のまちの魅力の向上やまちづくりを先導するために、今どのような都市機能が必要なのか、どのようなプロジェクトが必要なのか、あるいは厳しい経済情勢や土地所有に対する意識が変化している中で、企業等のニーズに対応した立地促進策として何が必要なのかなどの視点でご検討いただければと考えております。さまざまなお立場から、多くのご意見やご議論を期待しておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

【出口委員長】　　ありがとうございます。

設置の趣旨説明がございましたが、このフォーラムを進めていくに当たりましては、課題や、こちらにございます検討の視点を踏まえてご意見をいただきながら協議してまいりたいと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。

続いてスケジュールについてですが、年内に市長への提言を取りまとめるということをお聞きしています。お忙しい中、皆様にはお集まりいただきましたが、あらかじめ大方のスケジュールとそれぞれの会の議事内容について、事務局でまとめていただいておりますので、説明をお願いいたします。

【事務局（谷口)】　　それでは、お手元の資料「アイランドシティ・未来フォーラムのスケジュール（案)」についてご説明いたします。

第１回の本日は、「アイランドシティ整備事業の現状等について」というテーマのもとで、福岡市のみなとづくりとまちづくり、アイランドシティ整備事業の概要と現状、アイランドシティの立地特性等についてご説明した後、質疑応答を予定しております。

第２回フォーラムは８月２０日の予定で、２回目以降、開始時間は１３時３０分からを基本としております。「アイランドシティの都市機能等について」というテーマのもとで、アイランドシティのまちづくり、福岡市で強化すべき都市機能や大規模開発を活用した都市機能整備、市民・アイランドシティ住民の意識やアイランドシティ立地に対する民間事業者の意見、他都市の事例などをご説明した後、質疑応答を行う予定にしております。

第３回フォーラムは９月１７日の予定で、「博多港の将来像」や「アイランドシティへの企業立地を促進するための手法について」というテーマのもと、不動産価格の動向やアイランドシティの計画上の土地分譲単価設定の考え方、現在の立地インセンティブや他都市の事例などをご説明した後、質疑応答を予定しております。

第４回フォーラムは１０月８日、第５回フォーラムは１１月５日を予定しており、これ

までの説明や議論を受けて、委員の皆様のフリーディスカッションを中心に議論を深めていただき、提言内容の整理も行いながら、１２月３日予定の第６回フォーラムにおいてこれまでの意見をまとめ、提言書の内容を確認していただくという予定で、スケジュール案を作成しております。

以上でございます。

【出口委員長】　今、事務局からスケジュール案を説明していただきましたが、フォーラムを進めていく中で、その都度、必要に応じていろいろなテーマ、あるいは課題の追加などを行いながら、柔軟に進めていきたいと思っております。

今までのご説明の中で何かご質問あるいはご意見などございましたら、お願いしたいと思いますが、いかがでしょうか。このような進め方でよろしいですか。

【村田委員】　「アイランドシティの都市機能等について」ということが８月２０日になっていますけれども、自分たちは、僕個人の意見ではなくて、住民の意見を取りまとめて住民全体の意見を反映させていきたいと思っているんですね。その取りまとめが８月２０日では間に合わないかもしれないので、もし可能であれば、第２回と第３回の内容を入れかえるということはできますか。

【出口委員長】　むしろ、第２回目のときに「博多港の将来像」の話をして、第３回目に住民の方々の取りまとめた意見のご紹介も含めて、都市機能等について議論したいということですね。いかがですか。事務局で資料等の準備の都合があるかと思いますが。

【事務局（谷口）】　一応のテーマ設定はさせていただいていますけれども、それぞれの会でそれ以外の議論というか、テーマ以外のことをしないという趣旨ではございませんので、それぞれ、例えば第２回、第３回目でまとめていただいた住民の方のご意見を紹介いただくことは可能ではないかと考えております。説明の流れから今は一応３回までのテーマ設定をさせていただいておりますので、もしよろしければこういう形で、意見のご提案については事務局としても柔軟に対応をさせていただきたいと考えております。

【出口委員長】　第２回目のフォーラムのスケジュール案の、大きい四つ目の二重丸のところに、「市民・アイランドシティ住民の意識」という項目が挙がっています。この項目の部分に関しては、第３回目で取り上げて、集中的に議論したいというご提案かと思いますが、そういうことですかね。

そうすると、第３回目は「博多港の将来像」となっていて、企業立地などが柱として据えられていますが、この時までに取りまとめていただいた住民の意識などを再度またご紹

介いただいて、それに基づいて都市機能について再度議論していくということでもよろしいですか。

【事務局（谷口）】　　そのように準備をしていきたいと思います。

【出口委員長】　　村田委員よろしいですか。

【村田委員】　　ありがとうございます。

【出口委員長】　　では、その辺は柔軟に進めてまいりたいと思いますので、よろしくお願いします。

ほかに何かご意見ございますか。

【森委員】　　あと、第５回、第６回のところの時間なんですけれども、実は照葉校区では、毎月第１土曜日の１０時から１２時に連絡会を設定しておりまして、１２時で終わってこちらに来ると１時半に到着できるかなということがありまして、もし可能ならば２時という形にすれば、少し時間がとれるかなという感じがします。決まっていなければ、できたら２時にお願いできればと思います。

【出口委員長】　　第５回目と第６回目ですかね。

【森委員】　　５回、６回です。

【出口委員長】　　これは会場の都合で決まっているのでしょうか。

【事務局（谷口）】　　大丈夫でございます。

【出口委員長】　　大丈夫ということですので、細かい時間までここに書いていますけれども、あくまでもこれは案として出されているようです。委員の皆様方のご都合もあるかと思いますので、その都度、次回の時間などについては調整していただければと思います。よろしいですかね。では、そのように対応をお願いしたいと思います。

ほかに何かございますか。よろしいですか。

〔「なし」との発言あり〕

【出口委員長】　　それでは、進め方については皆様にご確認いただいたということで、ご協力のほどよろしくお願いいたします。

続いて２番目の議事ですが、アイランドシティの現状等についてということで、こちらは市役所港湾局からご説明をお願いし、その後、その説明に対して皆様からご質問やご意見などをいただければと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

では、説明をお願いします。

【港湾局（松本）】　　港湾局長の松本でございます。本日はお忙しいところ、アイランド

シティの未来についてご討議いただくということでお集まりいただきまして、まことにありがとうございます。

博多港におきましては、昨年、国際乗降客数が過去最高となりまして、平成２０年のリーマンショックの影響で減少した国際海上コンテナ取扱量や国際乗降客数も順調に回復しているところでございます。

アイランドシティに国際コンテナターミナルを整備した成果といたしまして、北米航路の増便、それから欧州航路の世界最大級のコンテナ船の就航が実現いたしまして、今年は国際コンテナ取扱量が飛躍的に増加いたしております。また、今年３月の東日本大震災の影響等によりまして外国クルーズ客船の寄港のキャンセルが相次いだわけでございますが、８月からは再開する予定でございまして、博多港は順調に、着実に成長しているところでございます。

この博多港の一翼を担いますアイランドシティの整備につきましては、平成元年に現在の島形式での埋め立てを決定し、事業を進めてまいりましたが、平成４０年代の完成を目指すという非常に長期にわたる事業でございます。平成６年から埋め立てを進めまして、平成１４年度から本格的に土地分譲を行ってまいりました。分譲開始当初から大変厳しい環境の中ではありましたが、事業者の方々にはアイランドシティの将来性にご理解をいただき、着実に土地分譲を進めてきたところでございます。しかしながら、平成２０年のリーマンショック以降、土地分譲の困難はさらに厳しさを増しており、主に土地分譲収入で事業費を賄っていますアイランドシティ事業を担当する者といたしまして、大変危機感を持っているところでございます。

このフォーラムを通じまして、皆様それぞれの視点から、この事業を進めるためのアイデアや新たな手法についてご意見をいただき、市民の皆様とともにこの事業を推進してまいりたいと考えているところでございます。

アイランドシティの現状等について説明いたしますが、まず私のほうから３点ほど述べさせていただきたいと思っています。

第１に、皆様に博多港が福岡市民の暮らしや福岡市の経済活動になくてはならない存在であるということをご理解いただきたいと思います。福岡市は横浜や神戸に比べまして、港町と呼ばれるような情緒に欠けているところがあるかもしれませんが、博多のまちは、先ほど市長が申しましたとおり、金印が伝来するなど太古から港とともに発展してきたという歴史がございますし、今日港で取り扱われている貨物にいたしましても、市民の暮ら

しを支える大きな役割を担っています。

福岡市の市内総生産の約３割を博多港が担っておりますし、また博多港に関連する仕事についておられる方も約３割を占めていて、本市経済、それから雇用の大きな柱となっているところでございます。また、アジアに近いという福岡市の地理的特性を生かしたこれらの福岡市の成長戦略上からも、ますます博多港は重要な役割を担っていくと確信しています。

それから第２に、皆様にはアイランドシティの誕生が、博多港が成長していく上で欠くことのできなかったことをご理解いただきたいと思っています。アイランドシティは、歴史ある博多の港が近代的な港湾に成長する際に弱みとなります海の浅さを克服するために誕生したという経緯があります。博多湾の平均水深が６メートル程度でありますために、近来の大型船に対応するためには航路を深掘りしなければならず、大量の土砂を処分する必要があり、その結果として誕生したのがアイランドシティであったということでございます。

それから第３に、皆様には福岡市の東部に位置するアイランドシティが福岡市全体における成長拠点の一つとなり得るということをご理解いただきたいと思います。それは、福岡市西部におけます九州大学学術研究都市づくりと並ぶ新産業の集積、それから先進的な居住空間としての福岡市東部における拠点ということでございます。

本日アイランドシティを視察していただいた委員の方もおられると思いますが、ほんとうに都心部に近いところにこれほど広大で形の整った土地はございません。このフォーラムにおきまして、福岡市の今後の成長を担うべきアイランドシティが市民の財産として真に価値あるものとなるよう皆様からさまざまなご意見をいただき、市もともに考え、その貴重なご意見の実現に向けて努力してまいりたいと考えております。

アイランドシティの現状等に関する詳細につきましては、資料に即しまして担当課長より説明させますので、よろしくお願いいたします。

【出口委員長】　　それでは、引き続き説明をよろしくお願いします。

【港湾局（駒田）】　　皆さん、こんにちは。港湾局の駒田と申します。こんな隅のほうから失礼いたします。先ほど視察にご対応いただきまして、ほんとうにありがとうございました。大分お疲れになったのではないかと思います。もう少しお時間をいただきまして、なるべく５時にならないように少し説明をさせていただきたいと思っております。

私は駒田と申しますけれども、将棋の「駒」に田んぼの「田」というお話を先ほどバス

の中でさせていただいたんですが、三重県に多い名前なんだそうです。まあ、これを掘り下げても博多港にはつながりませんので、早速資料の説明に入っていきたいと思っております。

このフォーラムにつきましては、「未来」という名前がついておりますように、未来を語ろうではないかということが市長の最も大きなご意向です。ですから、今日私が小一時間ほどお話しさせていただくのは、過去と現在ということになろうかと思います。今日は現地に行ってごらんいただき、また途中立ち寄った施設ではＤＶＤもみなと・まちを見て、またこの話ということで、海老井委員には大変失礼で、詰め込み教育なんですけれども、よろしくお願いしたいと思います。

今映っているような表紙の資料と、それから縦で年表ですね。それからＡ３横の「そういえばさっきここに行ったな」と場所がぱっとわかるようなもの、３種類をご用意をさせていただいております。ちょっと分厚うございますけれども、こちらの横の冊子をメーンに説明させていただきたいと思います。

また、こちらの列の委員の方は少し後ろを向かなきゃいけない位置関係で、大変申しわけございません。どうぞ構わずに、ページ数を申し上げますので下のほうをごらんいただいて、「スクリーンのほうを」と私からお願いいたしましたときに少し振り返っていただけると助かります。

早速ですが、この冊子の４ページをごらんください。これは既にご案内と思いますけれども、改めてアイランドシティの位置をご確認いただきたいと思います。これ全体が博多湾ないしは博多港なんですけれども、その中でアイランドシティというのは方角的に最も北側に当たります。人や物を運ぶ港と、人が暮らす港ということで、二つの機能に分かれております。アイランドシティをごらんいただきますと、ちょうどその二つの機能が共存しています。もちろん、すべて港にするという考え方もあるんでしょうが、公有水面、つまり海というのは国民の財産ですから、当然それを埋め立てるに当たってはそれなりの公共性が必要になってきます。そういう中で、当時の考えとして港湾機能を強化することが第１の目的、そしてもう一つはまちの機能も当時の段階で必要だったというところから、この二つの機能が共存して、海を埋め立てる認可といいますか免許をもらったという流れになるわけです。

それで、１ページに戻っていただきたいんですが、目次ですね。この資料も大部でございますので、最初にどんなことが書いてあるのかお話しさせていただきますと、大きくは

「福岡市のみなとづくり・まちづくり」というところから入っております。言うまでもなく、アイランドシティをアイランドシティとして議論してもあまり意味がないといいますか、当然のことながら福岡市政の中でどういう位置づけが与えられているのかというところからお話を差し上げたいと思っています。そして２番目に、各論としてのアイランドシティ。

色分けで、目次だけではなくすべてのページにわたって、資料の一番上に青で表記されているのは港に関係する事柄、それから緑で題字が載っているのはまちに関係する事柄、黒は共通的なものといった要素で分けておりますので、この資料を検索する際にお使いいただければと思っております。

この１ページは、先ほど来お話ししております、みなとづくりエリアとまちづくりエリアといったようなお話になります。まず第１に、港湾機能の強化をするために生まれたアイランドシティというお話から早速入っていきたいと思います。

２ページには全体的なことを書いてございますので、早速３ページになりますが、これも専門の委員の皆様方はよくご案内の話で、申し上げるまでもございません。今ここには金印の伝来と遣唐使しか書いてありませんけれども、もちろん言うまでもなく鴻臚館や袖湊、中世博多など、一番福岡市がアジアを意識して――意識以前の段でいにしえからあったと思いますが、特に市政として政策的に大きく打ち出してきたのが、１９８９年（平成元年）の「よかトピア」ということになろうかと思います。このときからアジアといったものをより具体的に進めていこうといった転換点を迎えたわけです。つまり博多港は昔から日本の玄関口、ゲートウェイであり、海を通じて発展してきたということです。

そして、地理的優位性もご案内のとおりで、今ここに福岡を中心として５００キロと１，０００キロの円がかいてありますけれども、大体ソウルと同じ距離に大阪、上海と同じ距離に東京、釜山ですと広島ぐらいになりますか。まさに釜山と福岡は一衣帯水ですよね。この狭い２００キロ程度のところで、２０００年以上の歴史を日本は刻んできたということです。

特に、この１，０００キロあるいは２，０００キロという円がありますけれども、１，０００キロあたりのところをごらんいただきますと、この絵よりも６ページのほうの絵がよろしいかと思いますので、ちょっと６ページをごらんいただきますと、これは日本をひっくり返した地図ですね。私も小学生のころにこういうものを見せられたことがあって、地図はどこの国も自分のところが中心にあるんだという話を思い出すような絵なんですが、こ

こでも同じく１，０００キロというのが一つのキーワードになってきます。このあたりを見ると、１，０００キロのところに非常に都市が密集している。ある人に言わせると、世界の中でも非常に人口の高い都市が、しかも近い距離で密集しているというのがこの東アジアなのだそうで、結局、この東アジアにあるたくさんの人々、それからたくさんの荷物、つまり人の流れと物の流れ、人流と物流、こういったものをいかに福岡に取り込んでくるのかということが福岡市の大きな政策になっておりますし、骨格になっております。そういったことがこの６ページでおわかりいただけるのではないかと思います。

資料の５ページなんですが、早速、この東アジアに面する日本海ゲートウェイというところで話を進めさせていただきます。先ほど玄関口という言葉がありました。それから、先ほどのすぐ下にごらんいただけるかと思いますけれども、６ページなんかもそうなんですが、なぜ玄関口なのかということですよね。

ちょっと順番を入れかえて先に６ページのほうからお話ししますと、今ここにUの字型だったり博多から西のほうに伸びていたりする青紫の矢印と、それから赤い矢印があります。そのお話は後ほど差し上げますけれども、そのUの字型のところを見ると、「長距離基幹航路（欧州航路）」と書いてありますね。ですから、欧州のほうから中国を通って日本に来ている。そして、ここからさらに東京、大阪に行ってもいいんでしょうけれども、彼らからすれば、「日本の荷物はここでおろしておきますから後はよろしくね」と言ってUターンしてもいいわけですね。まさにこの博多港の位置というのが、日本にとっての玄関口、つまりゲートウェイになっているわけなんですね。そういうことがこの絵からよくご理解いただけるのではないかと思います。

５ページに戻りますけれども、そのゲートウェイである博多港は、先ほど局長のあいさつの中にもございましたように、非常に大きな経済効果を持っております。福岡市内総生産の４分の１を上回る、ないしは３割と言ってもいい統計数値でございますけれども、そういった経済効果の試算が出ております。そして、ここに輸出入の数値が出ておりますけれども、重量ベースでは圧倒的に輸入が多い。これは金額ベースで言いますと逆転して輸出のほうが多いという構造になっておりますけれども、圧倒的に輸入が多い。そして、特に赤字でコンテナ貨物ということで、６２３万トンないしは１，０３６万トンのすぐ下にそれぞれ書いてありますように、約８割がコンテナで賄われている。そういうことから、コンテナというのが意味を持った話になってくるわけですね。当然、博多港はコンテナ港としてどう強化されていくのか、していくべきなのかという話になってきます。

６ページはそういった意味で、国際海上コンテナがどの程度の取り扱いをされているのかをグラフでお示ししているもので、ごらんのとおり、港が開かれてからずっと右肩上がりで来ているという数字がごらんいただけるかと思います。２１年が若干減っているのは２０年のリーマンショックの影響を受けているということです。日本では第６位です。しかし、日本で１位になるということはあまり考えておりません。それは生きる道ではなくて、７ページにあるような形で博多港は生き延びていこうということですね。

【出口委員長】　　済みません。恐らく、このペースで説明していると長引くと思うので、申し訳ありませんが、また第３回目で詳しく説明される機会があると思います。

【港湾局（駒田）】　　そうですね。はい、そうさせていただきます。

では、７ページをごらんいただきますと、国際コンテナ定期航路、それから国際ＲＯＲＯ船・国際フェリーといった二つの柱がございます。こういうことでコンテナ港として伸びていこう、また今伸びつつあるんだということでございます。

ちょっとここでＲＯＲＯ船の話も少し差し上げたいんですけれども、お時間も押しておりますので。７ページにＲＯＲＯ船という字が出てきておりますけれども、ここにありますように、荷台にコンテナが乗っていて、この荷台ごと積載できる船でございます。普通でしたら、今日港のほうでもごらんいただきましたように、コンテナを積んでありますから、船からおろし、またそれを置き場に置いていくというようなことになるわけなんですけれども、この船の場合はこのまま入っていく。したがって、上に積むことはできないわけなんですけれども、船からこの形のまま出てきますので、船から積みおろす、そしてまたどこかほかの場所に持っていくというような作業が大変早く終わるわけです。こういったような国際ＲＯＲＯ船が上海との間で週２便あるということです。それから釜山との間では毎日国際フェリー、これは人も扱っているわけですが、そういった便がございます。

８ページをごらんいただくと、博多港は日本で６位という話をしましたけれども、九州のほうではこの数値のとおり、大きな地位を占めています。つまり、暮らしに役立つ港だということです。

少しペースアップさせていただきます。９ページからは人が行き交う港ということで、人流についてのお話をさせていただいています。先ほどの冒頭のあいさつにもございましたように、この９ページ右上のレジェンド・オブ・ザ・シーズという船あたりが来月から再開するということでございます。

位置づけは、１０ページをごらんいただくと、空港・港合わせまして５位・７位という

のが右下のほうにございます。港だけで言いますと博多港は断トツでございまして、意外にも横浜、神戸のような港町に比べて国際乗降客数は結構な差が出ています。こういったことで、人が行き交う港としても日本一だということがおわかりいただけるかと思います。

１１ページから、そろそろアイランドシティに向けた話にだんだん入っていくわけなんですけれども、この１１ページも今日既に何度かごらんになったかと思いますが、要するに荷物を扱うについての世界的な趨勢は基本的にコンテナであるということが１点と、もう一点は、そのコンテナを積むためにコスト削減の要請から大型化してきているということです。

したがって、１２ページにございますように、博多湾の場合は水深が平均６メートル程度ということになりますので、船の底をすらないように航路をしゅんせつする必要があるということです。これは幅がちょっとわかりにくいんですけれども、昔、平成１２年ぐらいは２００メートル程度でしたが、今は４００メートルぐらいで、かなりの土砂量になります。このしゅんせつ土砂をどう活用していくのかということが非常に大きな問題であったわけでして、これをまさに埋め立てに活用したのがアイランドシティです。現在、工事がすべて終わったわけではございませんけれども、大体８割土地ができているうちの６割ぐらいに、このしゅんせつ土砂が活用されているということでございます。

次に１３ページなんですけれども、これは航路を掘る必要がある、そしてその航路を掘った土砂を活用する必要があるという話とは別に、アイランドシティがどうしてアイランドになったのかというお話でございます。これは１３ページにございますように、当然、当時は陸側のほうから埋め立てるほうが経費的にも安いという発想もあったんですけれども、１４ページに北側から見たアイランドシティがあって、手前に和白干潟がございます。つまり浅瀬であるがゆえに、潮が引くと鳥のえさがたくさんそこにございますので、鳥がついばみに来るということで、野鳥の宝庫でもあるといったところから、自然をどう保全していくのかという点と、それから暮らしをいかに発展させていくのかということとの共存、共生を図った結果、この島形式になったんだということが、１３ページの絵でおわかりいただけるのではないかと思います。

次に、２６ページに飛んでいただきたいんですが、今度はアイランドシティのみなとづくりエリアの話に入っていきます。２６ページは表題だけですので２７ページということになるわけなんですけれども、今ずっと、博多港が物流は日本で６位・九州で１位、それから人流につきましては日本で１位というお話をさせていただいたんですが、そういう中

で国際コンテナを扱っているふ頭というのは、博多港の中ではアイランドシティとその南側、対岸に位置する香椎パークポート、それから中央ふ頭の三つになりますが、基本的にほとんどがこのアイランドシティと香椎パークポートの国際コンテナ物流ゾーンで扱われているということでございます。したがって、アイランドシティというのは博多港の発展を担っていく、まさに国際コンテナ物流ゾーンとして展開されていくべき場所であるということでございます。

ここに新青果市場の用地も見えてございますけれども、これも今後、アジア地域との農産物の貿易等々、このコンテナターミナルのすぐ背後地にある物流ゾーンとなることが期待されています。平成２７年ぐらいの開場を予定しています。

大体、港、アイランドシティといったものが博多港の一翼を担って、そして将来的にも国際コンテナターミナルとして強化されていくということが、大体ご理解いただけたのではないかと思います。

ここで１８ページに戻っていただけますでしょうか。今ちょうど皆さんの資料は上が１７ページになっているかと思いますが、ここからがアイランドシティの各論です。その中で、今私がるるご説明差し上げたのは、この１番の港湾機能の強化ということで、博多港は太古からずっと海につながっているという話でございます。

冒頭にお話ししましたように、そのほかにも快適な都市空間の形成、それから新しい産業等の集積、東部地域の交通体系の整備、これも大きな目的となっております。この２番目の快適な都市空間、これは第２回目で詳しくご紹介させていただきますけれども、先ほど島形式にしたのが平成元年というお話を差し上げました。工事は平成６年から始まりまして、現在で１８年目なわけです。島形式になったのは元年で、当時の福岡市の人口は大体１２０万ぐらいだったと思います。現在が１４７万ということですから、毎年１万人以上のペースで伸びてきたことになりますね。ですから、この快適な都市空間の形成というのは、当時、福岡市においても非常に人口の増加が見込まれておりましたので、こういった伸びゆく人口に対して快適な都市空間を形成していくという役割も大きかったわけです。したがって、それが目的として取り込まれてきた。

また、産業についても同様ですね。福岡市は卸産業がメーンで、第３次産業の比率が極端に高いまちでありますけれども、そこで福岡市が今後どういった産業を目指していくのか、そういったことをこのアイランドシティの場で実践していくということが、一つの目的とされていたわけでございます。

計画人口としては、居住人口１万８，０００人、それから就業人口も、これはたまたま同じ数字だったんですけれども、１万８，０００人という計画フレームで現在に至っています。

１９ページは、簡単にごらんください。土地利用のゾーニングということで、先ほど来お話ししておりますような「みなと」と「まち」のエリアゾーニングでございます。特に「まち」につきましては海側に住宅、中側に商業あるいは産業と住宅が混在するような複合・交流ゾーン、それから道路沿いのほうにブルーの新産業・研究開発ゾーンといった分け方をしております。「みなと」のほうはこのふ頭ゾーンのすぐ真裏ということから、港湾関連ゾーン、産業物流ゾーンといった土地利用ゾーニングを考えているところです。

次に２０ページに、事業の仕組みということで書かせていただいておりますが、国と市と、「博多港開発」という言葉が出てきましたので少し触れておきますと、昭和３６年にできた、市が出資している第三セクターです。今年５０歳ということです。事業費といたしましては約４，０００億ということです。

このすべてが税金で賄われるのかといったようなご質問もよくいただくんですけれども、この赤囲みしているところ、市の起債事業の１，８２６億円、それから博多港開発の６４５億円。これは少し小さな字で欄外に書いてあります。つまり土地をつくるに当たっては、市も博多港開発も借金をして、先行して土地をつくって、土地ができたらその土地を分譲するとか貸すとかいう形の中で借金を返済していくというスキームになっているわけですので、この部分につきましては税金で賄っているわけではないということになります。

あと一つ、２０ページの中では「国工区」というのと、「ふ頭用地」という赤いところがありますが、ここは売地ではございません。ここをもし売って、その先の方がまただれかに売ってしまったら、港湾機能が維持できなくなってしまいますので、ここは貸して、使用料で回収しているところでございます。

次に、恐れ入ります、３０ページに飛んでいただきたいんですけれども、この３０ページにまちづくりエリアということで目次がありまして、３１ページからということになるんですけれども、さっき冒頭に港湾機能の強化というお話を差し上げまして、そして今、アイランドシティの事業主体、事業の仕組みのお話に少し触れさせていただきました。もう一つの機能であるまちづくりということでございます。大きな二本柱としては、先ほど申しましたように、人口が伸びていくであろう中にあって快適な都市空間をどうつくっていくのか、それから福岡市を将来引っ張っていくような新たな産業を持ってこれないのかといったことです。

３３ページに現況等を載せてございます。ここはごらんいただければ結構ですので説明は省きますけれども、左側の上にございますように、平成６年に工事が始まったというお話を差し上げましたが、ちょうどこの写真の中央に中央公園というのがありまして、ここで全国都市緑化フェアが開催されたのが平成１７年９月でした。ここのまちづくりエリアのところは、その年の１２月から入居が始まりまして、ですから今年の１２月になれば６年ということになります。現段階では約１，５００世帯、４，３００人の方々がお住まいであり、今日委員の方もお二人ご出席いただいています。

３４・３５・３６ページは、少し目休めにごらんいただければと思います。

３７ページです、市長のほうからも先ほど創エネ・省エネといったようなお話が出てまいりました。アイランドシティの計画というのは平成２１年につくったんですが、その当時は低炭素型まちづくりというような言葉が、かなり違和感というか、まだまだ市民権が得られないような状態でした。今は３・１１を踏まえて、低炭素ということも大きいんだけれども、この創エネといったことが極めて大きなキーワードとしてクローズアップされてきました。

福岡市も、図面で言うと３３ページにまた戻っていただきたいんですが、真ん中の写真の右上のほうに、CO_2ゼロ街区というところに白く網がかかっていますよね。ここのところに、イメージとしては戸建てなんですけれども、その戸建ての屋根が全部、少なくとも太陽光パネル発電になっている、そのような建物が１７５戸建ち並ぶというイメージで着手いたしたところでございます。それが３７ページのお話ですね。

それから３８ページもごらんいただいたとおりですが、ちょっとスクリーンのほうに、皆さんの手元の資料にない内容をお出ししています。「照葉小中連携教育校」と言うと何かイメージしづらいんですけれども、これをごらんいただければすぐおわかりいただけると思います。私も最初行ったときに、制服の子と私服の小学生がまざっているのが違和感あったんですけれども、今はこういった形で中学生が小学生の子供たちに読み聞かせをしたり、あるいは一緒に掃除をしたり、運動会を地域と一緒にされているということを伺っております。これが多分、一番、照葉小中学校を表現しているといいますか、特徴づけているのではないかと思って、ちょっと出させていただきました。

具体的に、照葉小学校は現在６００人を超えておりますし、中学校も１５５人ですか、全体で７６６人。平成１９年に小学校、２０年に中学校が開校しましたから、ここ三、四年で３倍、４倍に生徒さんが増えている。それは人口が増えているから当然といえば当然

なんですけれども、非常に大きな役割を持っていると思います。地域に根づいた小中学校だということです。

また資料のほうに戻ります。３９ページも特にご説明はいたしません。ごらんください。

そして４０ページから、ふくおか健康未来都市構想ということで、表題に「新しい産業等の集積拠点の形成」とございますけれども、まさに今、福岡市がこのアイランドでやっている、先般こども病院の立地も決定いたしましたが、こういった健康・福祉・医療に関連した産業集積を図りたいと考えているところでございます。

さて、ほんとうに雑駁なお話で申しわけなかったんですけれども、このアイランドシティの「みなと」と「まち」、大体のイメージがいただけたのではないかと思います。資料としてはいろいろ前後して大変恐縮なんですけれども、２１ページ、２２ページをごらんいただいて、そろそろ課題という話に入っていきたいと思います。５時前には終わりたいと思っております。

この中で、先ほど平成１９年までは土地分譲が云々という話がございました。それが２２ページの表なんです。「対平成１６年度計画」ということが表題に載っていますけれども、先ほど申しましたように、現在は平成２１年１２月に策定した計画に沿って事業を展開しています。例えば、この表、これは前計画のときの実績数値です。ごらんいただきたいのは、平成１９年までの進捗率で、みなとづくりエリア・まちづくりエリアともに、ほぼ計画に沿った形で進んできたということなんですね。しかし、やはりリーマン・ショックというのは大変大きな経験でございまして、これが起きる前にあったお話が２件ほどなくなったということもございまして、非常に苦しい状況にございます。

我々アイランドシティ部隊というのは、究極的にはこの２１ページのように土地を分譲している組織なんだということです。そう言ってしまえば、ある意味身もふたもないんですけれども、まちづくりをしていくに当たって土地分譲し、先ほど申しました借金を回収しつつ、まちづくり・みなとづくりを進めているということなんです。

２１ページをごらんいただきますと、簡単に言えば、今後、緑のところを分譲ないしは活用していくというような表があります。全体の面積は４００ヘクタール、福岡ドーム１００個分の土地があるというのが、先ほど市長のほうからございましたね。そのうち分譲する面積というのは、この表の一番下にありますように２２３．９ヘクタールということなんですね。どこまで進んだかというと、全体では３６％。ただし、先ほど来お話ししておりますように、博多港開発工区というのがこの絵の右下のほうに４分の１ございまして、

こちらのほうから着手してまいりましたので、ここについてはほぼ８割ぐらいが終了しています。

ですから、今後このフォーラムでご議論いただきたいのは、先ほど趣旨にございましたように、リーマン以降、土地分譲が極めて厳しくなっている中で、どう打開していくのかということが基本的な課題についてです。港湾機能については今後も強化していくということになるわけで、そのことはこのフォーラムでは特に議論はされないと思うんですけれども、例えばコンテナターミナルのすぐ裏、またはまちのほうはどんな産業を持ってくるか、あるいはまちの魅力をどう高めていったらいいのか、こんなことが一つの課題となってまいります。

最後に、ページで言いますと４２ページからになるんですけれども、これはちょっと違った観点から整理をしているものです。今アイランドシティの過去と現在、また、港湾局が取り組もうとしているお話にも触れさせていただきました。そしてまた土地分譲がどういう状況にあるのかといったことも今ごらんいただいたわけですね。４２ページ以降に、このアイランドシティの立地特性ということで少し整理しております。

４３ページ、これは都市部に大規模な開発用地があるということの意味ですね。例えばこれを都心部に置いてみると、博多駅と天神がすっぽり入ってしまうような広さを持つアイランドシティであるということ。

それから４４ページ、４５ページは物流関係のお話ですよね。成長著しい博多港といったこと、それから４５ページは物流の結節点ということで、このアイランドシティを中心にした１０キロ圏内に入っていると。

また４６ページは、これは「まち」と「みなと」共通するでしょうけれども、交通アクセスを向上させるための取り組みです。バス営業所予定箇所に色を変えて入れております。

それから４７ページ、これはアイランドシティという島だけで見るのではなく、少し広目に鳥瞰したときに、こういった自然環境に恵まれている。

そういった場所に、４８ページだと環境関連施設が集積している。

また４９ページでごらんいただけますように、スポーツ関連の施設も集積している。せんだって報道のあったソフトバンク二軍練習所というのは雁の巣レクリエーションセンターの中ですし、⑥のスポーツ研修施設も、つい先ごろ６月に民間事業者によって事業が展開されています。またツール・ド・フクオカという自転車レースが昨年１１月にこの中央公園の周りで行われました。

アイランドシティが今後どういったまちづくり、どういったまちの魅力を出していくのかという意味において、一つの特性をご紹介差し上げた次第でございます。随分長くなって申しわけございませんでした。

実は一つだけまだ話し足りていないことがあって、それはアイランドシティの安全性の話です。今日はもうお時間がないようですので、また別の機会にさせていただきますが、ページとしては２３～２５に、アイランドシティの安全性について記載をさせていただきました。これについてはまた別の機会にお話を差し上げたいと思います。

非常に長くなりましたけれども、アイランドシティの現状等について、そしてまた今後このフォーラムの中でご検討いただきたい素材ということで、お話をさせていただいた次第でございます。どうもありがとうございました。

【出口委員長】　　ご説明どうもありがとうございます。

ただいまアイランドシティ整備事業の現状等について、ご担当の港湾局から説明をいただきましたが、残りの時間は、第１回目ということですので、委員の方お一人ずつ、少なくとも１回ずつご発言いただければと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

今日は第１回目ということですので、説明いただきました整備事業全般について情報を共有することと、理解を深めるということが第一義的な目的かと思います。今までのご説明の中でご不明な点、あるいは補足していただきたいという点などございましたら、お願いします。

大庭委員、何かございますか。

【大庭委員】　　特別はないんですけれども、やはり今日、実際行ってみて、改めて感じた部分がいっぱいありました。特に、もう既に住んであります森委員と村田委員からいろいろお話を聞いて、市長が言っていましたけれども、一般的に人工島というイメージからほんとうに随分変わって、やっていくんだなというのを改めて思いました。僕は市役所の人と随分話しましたけれども、イメージ的に負の遺産みたいな部分じゃなくて、結果的に、今度はプラスイメージでやれるんだなというのを改めて感じました。

その中で、こども病院がはっきり今回移るということは、やっぱり町のイメージには随分プラスになるんじゃないか。こども病院そのものは全国から子供が来るので、逆にもう一つの核になるのかなと。子供のためにこっちに移ってこられる方とかいらっしゃると思うんですね。だから、そこら辺のプラスアルファの部分を考えること、それと、例えばいろんな問題が起こったとき、これは消防の関係になると思いますけれども、ヘリコプター

が離発着するのは、ビルの上じゃないとできないとかいう部分なども細かくやっていくんですけれども、全体的にほんとうにいろんなものを見せていただいて、市の方の頑張りというのを改めて感じましたし、プラスイメージで少しでも前向きにやっていけたらと思いました。ありがとうございました。

【出口委員長】　　現地をご覧になり、改めて可能性を感じられたということですね。

【大庭委員】　　感じましたね。特に、住民の方の心意気とか、もう既に、住民の方のコミュニケーションですか、これはほんとうに、村田さんのような若い方がまとめられて、一緒にやっていくというのを感じることができました。私は博多の人間ですけれども、ああ、これはいいんじゃないかなと思いました。可能性というのも、すごく今日感じましたし、市の方の説明、田中さんなんかの話もすごくよかったと思います。だから、現状というのがやっとわかって、それぞれに核があって、その核の中でどういうふうに持っていけばいいのかなというのを１日で随分勉強させていただいて、やる気が出てきました。ありがとうございました。

【出口委員長】　　ありがとうございます。

現地を見て、いろいろ話を聞くと可能性を感じることができるわけですが、逆に言うと、未だ、そうした話が市民にきちんと浸透していなのではないか、というご指摘と考えてよろしいですかね。

【大庭委員】　　そうですね。じゃあ、もう一つ。初めて今日、自分が感じて、トコさんともずっと話していたんですけれども、これについてうそを言ったらいかんので、ちゃんと自分が把握できたら、自分のレギュラーのラジオ番組で自分が何を言ってもいいことになっている番組がありますので、ちゃんとアピールをやっていきたいと。そういうときはまた、村田さんとか森委員に聞いて、うそを言わないように、ちゃんとした話をやっていきたいと思いました。

【出口委員長】　　ありがとうございます。

他の方からもご意見をいただきたいと思います。それでは、森委員から。

【森委員】　　ありがとうございます。やっぱり百聞は一見にしかずで、どこまで進展しているかというのを、できたら今日視察していただいた方々が、今日見て第一声、こういうことを感じたということを、住民としてはぜひ聞かせてほしいなというのが一つです。もう一つは、さっき小学校、中学校の話が出ましたけれども、実は、小学生が中学校に入学して、今年初めて卒業生として出たんですよ。こういうふうにして、子供たちは着実に

このアイランドシティがふるさとという形で卒業しているという実態もお考えいただきたい。

それから、今日私も初めて港湾の部に入りました。要は、港湾づくりとまちづくりとあまり分離せずに、市民が港湾の中に入れるような、あるいは港湾の人たちが市民の中に融合できるような、そういうふうにした一つの課題というんですか、そういう見方もひとつしていただければありがたいかなというふうに思っております。

【出口委員長】　ありがとうございます。おそらく第３回目に、そういう話題で、また議論していただくことになるかと思いますが、今までの中で、何か事務局からございますか。港湾地区も、市民に開放したり、都市部と関連やつながりをもっと強く持たせていく必要があるのではないかというご指摘をいただきました。

そうしましたら、ほかの委員の方からご意見、ご質問をどうぞ。増山委員、お願いします。

【増山委員】　私は１年ほど前に福岡に来まして、何度かアイランドシティのほうには行かせていただいているんですが、今日ご説明もいただいたし、それから、タワーの上から見せていただいて、ほんとうに実態がよくわかりました。

町の印象ということでは、非常に緑の多い町だなということで、ほんとうに住んでみたい町ではないかなというふうに思いました。

このフォーラムの趣旨でもあるんだろうと思うんですが、居住人口、計画人口が１万８，０００人に対して、現状４，３００人ということで、住むという意味では、結構計画が進んでいるのかなというふうに思います。

一方で就業人口がどのくらいかというのはちょっとよくわかりませんけれども、多分市のほうの課題というのも、その辺に多くあるのかなというふうに思っておりまして、物流施設なり、あるいは新産業、どういう産業を根づかせるのかということがなかなかうまくいかないというあたりに課題があるのかなと思いました。

ご説明の中では、多分アジアとか健康福祉とか、そういったところがキーワードになっていくんだろうと思いますけれども、健康福祉のほうは、先ほどありましたように、こども病院が来るというようなこともありますし、アジアとは、もともと地理的にも、歴史的にも近いということですから、その辺を実際のビジネスにどうやって結びつけていったらいいのかなということがあります。アジアということでいいますと、福岡全体、あるいは九州全体もそうだと思うんですけれども、今後、何を機能として整備していけばうまくい

くのかなというあたりを、少し真剣に考えていきたいなというふうに思っております。以上でございます。

【出口委員長】　　ありがとうございます。

課題の頭出しをしていただきました。この資料の中で、計画居住人口が１万８，０００人で、就業人口も１万８，０００人という記載があり、先ほど市長さんのご挨拶の中で、既に居住者が４，３００人というお話がありました。就業者は如何なんでしょうか。その辺のご質問ともとれるようなご発言ですが、如何ですか。進捗状況などは。

【港湾局（吉川）】　　現時点の就業人口でございますが、まず、港のほうのふ頭等で働いておられる方が約１，２００人おられます。それと、そのほか町のほうでいろいろ、ビジネス、事務所等、学校等も入れて約３００人でございます。そういう状況でございます。

【出口委員長】　　計画就業人口１万８，０００人のうち１，５００人が既に今就業されているという状況ということですね。

続けて、他の委員の方から、ぜひご発言をお願いしたいと思います。どうぞ、村田委員。

【村田委員】　　照葉まちづくり協会の村田ですけれども、一応このフォーラムに入るに当たって、いろいろ町の人から、照葉のまちはすばらしいということをアピールしてこいと言われて来ています。

まず、最初市長さんから言われたんですけれども、このフォーラムに当たって、未来を描くというのもあるんですけれども、一般的なイメージからいうと、結構マイナスなところが多い。ケヤキの問題とか、いろいろあってネガティブイメージがあるので、ネガティブイメージをこの会で払拭していけたらいいなと思っています。

具体的に、市長さんが言われたんですけれども、マスメディアのほうでよく人工島という言葉を使われるんですけれども、やっぱりイメージが悪いので、できれば人工島という言葉は避けていただいて、アイランドシティ、居住区については、住所は香椎照葉なので、照葉と呼んでもらったりするとありがたいなと思っております。

結構住んでいる人たちに多いのが、もともと東区にいた人が、周りから見ててすてきだからといって越して来ること、もしくは完全に県外から越して来ることが多い。逆に中央区とか、僕はもともと城南区の人間なんですけれども、そういうところから来る人って意外と少ない。やっぱりネガティブな、すごく遠い場所とかいうイメージがある。利便性とか生活環境でいうと、住民側から言うと、皆さん既に結構満足されています。ちなみに、僕は天神で働いているんですけれども、自転車で通勤していますし、そんなに住環境とし

て、今の段階でネガティブなものは僕は全く感じていません。以上です。

【出口委員長】　　ありがとうございます。

むしろ、メディアや活字を通じて情報を入手している少し遠方の方がネガティブな印象が強く、近くの東区で目の前でその環境を体験できるような方は、非常にいい環境だと感じ、移り住んでいる傾向にあるということですね。その辺をヒントにしながら、これからの広報戦略を練っていただければと思います。是非、他の方からもお願いします。

土屋委員、お願いします。

【土屋委員】　　商工会議所の代表で参りました土屋でございます。

アイランドシティには私も数多く訪問しておりますけれども、今日改めて立地、あるいは環境、すばらしいところだなあと実感した次第でございます。

特に、港湾施設について、それから住環境については、以前から大体予定どおりにいっているし、ますます充実してきたという印象を持っているんですけれども、産業関係の立地についてはほとんど進んでないという印象で、このあたりが今回の我々の委員会の大きなテーマになるのかと思います。

やはり、キーワードとしてはアジアとか、あるいは後背地を抱えた九州の産業の活性化に、このエリアをどう生かせるのかといったことがテーマかなと思っております。

そういう意味でちょっと気になりますのは、起債をされて、分譲で返されるということなんですけれども、そういうシナリオで産業立地が成り立つのかどうか、もっと違う発想が要るんじゃないかという疑問を以前から持っているんですけれども、そのあたりも深掘りできればと思います。ほかの元気なアジアの国々がたくさんありまして、むしろいろいろな特典といいますか、インセンティブを与えて、引っ張り込んで、人、物、金を呼び込むという構図をつくっているわけですね。それを都市全体で回収しているという感じがするわけです。産業について考えるならば、そういった発想も要るんではないかという気がしております。以上でございます。

【出口委員長】　　ありがとうございます。

よく比較されるのが、一つ前の時代の埋立地の百道だと思います。百道にはソフト産業を中心にした企業が立地していますが、ほとんど土地分譲で、しかも自社ビルというか、ビルをご自身で建てられて、立地されています。それと同じ手法でアイランドシティを考えると難しいのではないかということでしょうか。

【土屋委員】　　あれはちょうどバブルの真っ盛りのときに計画したものです。百道には

私も若干タッチしていましたが、流れとしましては、バブルの真っ盛りのときに計画しまして、コンピューターメーカーも相当な規模のソフト開発エリアということで始めたわけですけれども、はじけた後に、相当余剰スペースということで、営業部門等も収容したといういきさつがありまして、当時はバブルの時代ですから、地価は安かったと思うんですけれども、周りが下がったものですから、結構高い地価で施設をつくったという流れになっているかと思います。ですから、ああいう知的な産業でも、土地の値段というのも一つの考慮すべき要因じゃないかなというふうに思っております。

【出口委員長】　ありがとうございます。事務局から何か発言ございますか。企業誘致に関しては、従来の土地分譲のやり方で、工区や区画ごとに採算をとるような考え方ではなく、むしろ島全体、アイランドシティ全体で採算をとっていくよう、柔軟に考えられてはどうかというご意見かと思います。

【土屋委員】　福岡全体の経済圏という大きなエリアで考えるということですね。

【出口委員長】　一つのアイデアをいただきましたが、この件に関して事務局からご発言ありますか。

はい、どうぞ。

【港湾局（永富）】　アイランドシティ事業推進部の永富でございます。

今、ご意見いただいたように、これまで百道と同じで、土地分譲を中心にやるという趣旨だったんですが、なかなか厳しいというのが土屋委員が言われたように現実だと思いますので、このフォーラムでいろいろいただいたご意見を踏まえて考えていきたいなと思っております。

百道のときは、平米２６万円ぐらいで、ソフトリサーチパークと位置づけをした上で分譲してまいりましたけれども、例えば西のソフトリサーチパーク、東の何とかという形でできればいいかなと思っていますので、いろいろご意見をいただいて、参考にしたいと思っています。以上です。

【出口委員長】　ありがとうございます。

では、平山委員どうぞ。

【平山委員】　平山でございます。今日見て、港のところは、先ほど土屋委員がおっしゃったように、企業の誘致の引っ張り込みが弱いなと。ふ頭は非常に立派なもので、違和感を感じたんですけれども、分譲だけじゃなくて、私は長期的に証券化による流動化等も使いながら、事業用定借なんかによって事業者が一度に多額の投資額を突っ込まずに入っ

てこれるような仕掛けというのが必要じゃないかと思うんですね。開発利益というのは、直接的な分譲から回収するんじゃなくて、固定資産税や住民税等、トータルで回収するという考え方をとっていけば、十分市民の方も納得できるんじゃないかなと。マスコミでは、すぐ収支がどうだと言いますけれども、それは少し近視眼的じゃないか。特に、港のほうはアジアのゲートウェイを目指しているということですから、物流の中で非常に重要な位置を占める。それに青果市場等が来れば、また、人、物、金というのが動いていきますから、それで十分間接的には回収できるんじゃないか。

もう１点、住宅のほうは、私は不動産鑑定士ですけれども、非常にすばらしい。家は人がつくるんですけれども、つくった後は人をつくるとよく言われます。戸建て住宅ゾーンにしても、鎮守の森とか、ボンエルフ的な、非常に農村の庭的な、人間の心に訴えかけるようなまちづくりをしている。

非常に私が感心したのは、今日たまたま地元住民の代表の方の二人と会ったんですが、非常に戸建てゾーンとかタワーゾーンの方とのコミュニケーションがよくとれている。特記すべきは、私は小中一貫校だと思うんですね。先ほどのビデオでありましたけれども、中学生が小学生に教えると。我々は縦の社会で育ったんですけれども、最近は横社会と言われて、そういう場でコミュニケーションをとるのが得意じゃないと言われています。あんなのを見ていると、もし、自分が小さい子供を持っていたらああいう学校に通わせたいなという気がいたしました。以上です。感想です。

【出口委員長】　どうもありがとうございました。

やはり土屋委員と同じようなご意見かと思いますが、もう少しトータルで、あるいはもう少し時間軸を長くとって事業の採算性を考え、企業誘致をしていく必要があるのではないだろうかというご意見をいただきました。繰り返しになりますが、これについて何か事務局からございますか。何かご発言されますか。

【港湾局（永富）】　永富です。

基本的に言えば、収支の面もありましたので、今まで分譲が中心になっていましたけれども、広い意味で長期回収すればいいというご意見でした。第２回、第３回とまたご意見をいただきますので、その中でいろいろ検討していきたいなと思っています。以上です。

【出口委員長】　是非、その可能性をご検討いただければと思います。

よろしいですか。では、続いて、貫委員。

【貫委員】　経済同友会の貫でございます。

皆さん方がおっしゃったのとあまり変わらないんですけれども、もともとこの１０年、あるいは２０年､福岡地域といいますか､西日本は日本の西のゲートウェイということで、非常に重要な拠点として注目されておったわけですけれども、特に３．１１以降、東のほうから西にどんどん移ってくる中で、次の飛躍の非常にいいタイミングに来ているように思っております。

そのためには、まず、この福岡の都市機能といいますか、西のゲートウェイを支えるだけの都市機能をいかに充実強化するかという点から見ると、博多湾の機能をそういう観点からもう一回しっかりと見直す必要があります。今やっていただいている最中で、特にアイランドシティを見たときに、港づくりエリアのほうはその方向で確実に行っているような気がするんですが、まちづくりエリアのほうで、博多湾全体、あるいは福岡市全体を見たときの都市機能の充実強化といいますか、そういう観点からもここを見ていって、将来像の一環として、どういう機能をここに持たせられるか、そういうことを十分に検討していただきたいんです。そうすれば、今日さっき市長がおっしゃいましたけれども、大変夢のある会議になるんじゃないかというふうに思っています。

ただ、分譲の問題となるとちょっとその辺の接点がなかなか難しいんで、結構長期的な目から見ていくことも必要だろうという、夢と現実と両方合わさった、非常におもしろい会議かなというふうに思っております。

【出口委員長】　　ありがとうございます。

特に、都市的な土地利用の区域に誘致していくような都市的な機能に関しては、福岡市全体の中での位置づけをきちんと考えてみるべきではないだろうかというご指摘をいただきました。

では、海老井委員、お願いします。

【海老井委員】　　まず、人工島のことなんですけれども、確かにマイナスイメージがかなり強かったと思うんですよね。これはやっぱり非常に福岡市にとっての大きな重荷になっていると感じていますので、この際に、ぜひ未来を語るという中で、マイナスイメージを払拭して、むしろプラスイメージへとつくっていく会であってほしいなというふうに思います。

私は何度かアイランドには行ったことがあって、今日は港のほうを見せていただいて感じていたことは、港づくりとまちづくりというふうに、二つに分けて説明されましたが、あれがあまりにも画然と分かれ過ぎているという感じがするんですよね。メーン道路の右

と左でぴしっと分かれて、そして、あの道路そのものも非常に直線的で、これがどうも人工というイメージを強くしてしまっているんですが、ここに人が住む、あるいは働くというときに、ほんとうに優しい、人間らしい気持ちということとの調和が必要だと思うんです。

二つの機能をきちっと強化しながら、いいものをつくっていきながら、ただし、やはり一つの島ですので、そのあたりを調和させる理念が何であるのかということは、これからまた議論していくべきことだろうと思います。全体のコンセプトをつくっていく中で、何をするかということと同時に、やっぱり、あんなにきちんと、画然と切り分けられることはどうなのかという感じがいたします。

それともう一つですが、港湾のところに初めて入ったんですけれども、あれは係の職員の方が、港湾というと、皆さん汚い、怖い、それからきついという３Ｋというイメージを持っているでしょうけれども、でも、ほんとうはそうじゃないですよというふうに言われまして、見ますと、実際に電気で、すばらしいスピードできれいにコンテナをおろし、積み込んでいく。あれを子供たちが見たらどんなに感動するだろうかなと。港での仕事とか、それからコンテナとか貨物といった仕事へのイメージが随分変わるんじゃないかなと思うんですよね。これからまた港湾を強化していくなら、小学校、中学校があんなに近くありますので、教育の場、機会になるんじゃないかなということです。

ついでに済みません、小学校、中学校、すばらしいんですけれども、やっぱり全体が若い町ですよね。小学生、中学生が元気なのはいいんですけれども、やっぱり高校生、大学生、あるいは大人が住む成熟した町にどうやって成熟させていくか。そのために、どんな人が集まってくるかということを考えながら、産業とか施設といったことを考えていかないといけないんじゃないかなと思いました。以上です。

【出口委員長】　　ありがとうございます。

港地区の就労の場を、学習の場として活用できる可能性があるのではないかというご指摘をいただいたのかと思います。確かに小学校、中学校という教育施設だけではなくて、生涯学習的な発想で、いろいろな世代の方々が学べるような場になると成熟した町の姿になっていくのではないかというご指摘と思います。ありがとうございます。

それでは、甲斐委員、お願いします。

【甲斐委員】　　ちょっと質問なんですけれども、今、居住されている４，３００人の中に外国人はおられるんですかね。

【出口委員長】　　把握されてますか。

【港湾局（永富）】　　４，３００人中の外国人の割合なんですよね。数値は持っていませんけれども、例えばタワーマンションがございますよね、４０９戸の高層住宅ですが、１０％くらいの方が外国人だとお聞きしています。

【森委員】　　タワーだけで大体２０世帯超ですかね。あと、インフィニさんとかもいらっしゃいます。全体は市が把握していらっしゃると思ってたんですけれども、今、タワーではそういうことで、国際交流のパーティーとか、そんなことをやりながら、違和感のないようにコミュニケーションづくりをしております。

【村田委員】　　こちらの照葉まちづくり協会のほうでは、大体三、四％ぐらい外国人の方がいらっしゃいます。

今、ちょっと僕、人口の統計を持ってきているんですけれども、世代別の人口構成では、僕は今３５歳なんですが、僕の世代が一番多い。３５歳から４０歳が断トツで多いんです。次のピークはゼロ歳から４歳。年齢的にはその世代が大半を占めている。高校、大学、１０代後半、２０代前半は極端に少ないです。

みんなが危惧しているのが、新しい造成地につくった住宅というのが、そのときは、いわゆる若い町といって始まったものが、それこそ３０年後になると老人の町になるということもあるので、その辺は老人の町というわけじゃなく、活気あるまちとして今後何十年もあり続けるためにはどうしたらいいかとか、その辺についても、このフォーラムで取り上げてもらえればなと思っております。

【甲斐委員】　　どうもありがとうございました。

それで、あと、港のほうにつきましては、第３回なり、第２回でやるということなので、そのときに話をさせていただきたいと思います。今回の震災で、アジアとの交流、中国との交流を含めまして、ものすごく福岡の立つ位置というのが変わってきていると思います。今まではアジアに一番近いゲートウェイと言いながら、実際はそれほどその近さが生かされていなかった。今一番地の利を生かすときだろうと思うし、東北の人には申しわけないんですけれども、今、福岡、九州、西日本にとっては天の時だろうと思います。福岡、九州が日本の再興、復興を担う場所ということでアイランドシテイを考える必要があると思います。福岡は、アイランドは福岡市民の宝・財産だと思うんですね。ですから、そういう中で港湾機能は日本海側の港としてもっと充実させなければいけない。もう少し変わらなければいかん、もっと充実させなければいかん。もう一つ、市民のまちづくりの中では

何の産業を引っ張ってきたらいいのかと思います。今日見まして、こども病院予定地、それと杉岡先生の股関節の病院がありましたが、こども病院を核とした、医療に特化したような形の町もあるのかなと思います。外国人ということを聞いたんですけれども、あそこは非常にいい医療ができる、外国人も住んでいる、外国人の先生もいる、外国の看護師もほかの地区に比べて福岡が一番雇ってやっているとか、そういう特別な目玉になるようなものが何かできないのかなあと思いました。なぜかといったら、町が安全であるということと、病気になっても、医療の現場で言葉不自由しないとか、そういう新しい形でのまちづくりができたらいいなと感じながら、今日町を見ていました。

【出口委員長】　　ありがとうございます。

それでは、伊東委員、お願いします。

【伊東委員】　　そろそろ終わりになってきて、何か言わないと帰れなさそうなので発言させていただきますが、皆さんの言われるとおりだと思います。私、半年前に出口先生たちと視察してから、今日また改めて見て、先ほど海老井委員が言われたことを、想像どおり感じてきました。

私は、３年ぐらい前から、福岡市は日本海側の首都たれ、という意識を持って取り組んで欲しいと言ってまいりました。私は日本海沿岸において、以前、創設館長として長崎県美術館を立ち上げて、今富山大学において国立初の文化マネジメントコースを開設するとともに、富山市の政策参与として富山市のまちづくりを担当していますが、このような日本海側の埋もれた資産というものがどんどん再活性化する中で、日本海側のウィークポイントというのは、古来から最も大きな経済圏に属していながら、やはり中心地の性格がはっきりしてこなかったということです。その点において、福岡市は九州の中心というだけではなく、地図に見られるように、やはり日本海側における日本の中心、そして、アジアの一つの中心という自覚を持って将来を設計してほしいと思います。その意味において、このアイランドシティというのは、非常に時宜を得た開発であるということは間違いないというふうに思います。

過去の環境開発に対する否定的な時代の傾向というもの、アイランドシティもこの反省の上に当然成り立つべきであって、今後あらゆる開発は、例えば自然と環境の問題とか、地域文化との共生の問題とかを深く考慮に入れることを否定してはいけません。しかしながら、このような土地を策定して、これがどういう意味を持つかということももう少し考えなければいけない。それは、この地区を未来の福岡の顔になるような、もしくはアジア

の一つの顔になるような地域にしなければ、逆にこの規模でこの地域を開発した意味はないということなんです。

その意味においては、今は非常に矛盾したプロジェクトが策定されていると言わざるを得ない。なぜならば、あれほどハイテックな港が整備されていながら、例えば自然公園があっても、分譲という手法だけで採算性を考えた町をつくろうとしている。そうではない。これが新しい港町の姿だとか、新しい福岡の姿だとかというものを代弁するような、そのようなある種の、先ほど貫委員が言われたように夢を持たなければ、ここに住もうという地域の人が誇りにするような文化が生まれない。そのためにどうしたらいいかというのは、前の提言書でも言いましたように、ここで行われているコンテナを中心とした物流というダイナミズム、エネルギー、そしてその輸出入される商品を通じての情報の交換ということを町のダイナミズムにつなげていくような、そしてまた福岡市全体のダイナミズムをここで見せるような中核文化経済施設を策定することが最良だと思います。

例えば県で今策定されていますコンベンションセンターがあります。このコンベンションセンターは、世界において、今需要がとてつもなく増大しておりまして、ハノーバーとかは５４万平米の規模を誇ります。日本には東京メッセがありますけれども、８万平米しかない。そういう施設を、逆に今までになかったようなコンベンションとして、文化とか環境とかを考えるようなハイブリッド施設として考えるというのも一つの手ではないか、と思いますし、海上および航空輸送や物流において、ハブ機能を喪失した日本が「情報」とその「流通」という分野において新たな中心機能を持つことが、福岡だけでなく日本の将来についても貢献することとなるに違いありません。

私は九州人ですけれども、福岡にあこがれてずっと育ってきました。しかし、福岡というのは、「顔のない」、すばらしい町なんですね。しかし、顔というものが必要になるときもあるだろう。そのときに、このアイランドシティという場所とその機能が一つの顔になり、その中に市民と県民と、そして地域の人たちが、もしくはこのエリアの人たちが集うような一つの施設、施設意識、情報発信ゾーンというものを、ぜひ作っていただきたいと思います。

【出口委員長】　　ありがとうございます。

顔のない町ではないかという点は、冒頭、住民の森委員や村田委員からの人工島という名前でいつまでも呼ばれているご指摘と関連してくるかと思います。やはり地域の顔となり得るような場所の意義といいますか、土地の持つ意味というものを見出す必要があるか

と思います。

【伊東委員】　　私は先週兵庫県に呼ばれて、兵庫津の再生のことでアドバイスをしてきたんですけれども、兵庫津と同じように、博多の港は平清盛が１，０００年近く前に港湾整備をしたところで、非常に歴史のある地域なんです。その時代、彼は何を目指していたかというと日宋貿易です。清盛が目指したように、アジアとの貿易によって日本を救うというのは福岡地域における１，０００年を超えるテーマなんですね。そして、国際都市というものは、福岡の１，０００年の性格なんです。そういう歴史的な背景をここに移殖しないと、これが博多の町、もしくは福岡の町の文化と融和することはないと思いまし、アジアの中で退潮する日本の存在感の再生に貢献できるものとはならない、と思います。

【出口委員長】　　ありがとうございます。

長い博多の歴史の中で、このアイランドシティの位置づけを考えていくべきではないかというご発言でした。未来だけを見て語るのではなく、長い歴史の中でこの場所を位置づけようというご発言ですが、また次回以降協議していきたいと思います。

続いて小俣委員と、まだご発言されてない委員の方々にご発言いただきたいと思います。

【小俣委員】　　髙島市長が就任されてから、情報発信力が大切だというふうに言われているのをよく新聞とかテレビで見ていますけれども、まさに、それが重要だなと。私も三十数年前に、百道の１丁目、浜があったときに行って、それから、二十年前ぐらいに、百道浜に住んで、そして、百道の発展というのを見てきたわけで、そう言われれば私も人口浜の人間でございます。しかし、そんなことを言っている人はいませんよね。

それは別にして、市役所の職員の方も市民です。でも、いろいろなアイランドの話をしているときに、市の職員の方も、ほんとうに今まで制限されているというか、言論抑圧というか、マスコミのプレッシャーというか、市民のプレッシャーというか、私どもがかけ過ぎたのかもしれませんけれども、ほんとうに優秀な方たちがおられるのに、自由闊達に言えなかった部分もあると思います。もう言えると思うんですよね。

福岡はあそこしかないですよね。私ヘリコプターに乗せてもらったんです。そのときに、もう土地はそこしかないんですよ。那の津港も須崎も埋め立てで、福岡はそんなことを言ったら、全部埋め立てなんですね。埋め立て以外ないわけですよね。財産、宝物なんですね。先ほど平清盛の話が出ましたけれども、だから、これは堂々たる歴史なんです。

それと、今日勉強になったのは、１４メーターの喫水というんですか、６メーターだったのを掘って航路をつくらないといけないんだと。掘った土をアイランドにする目的もあ

ったんだと。だれも知らないと思うんですよ。知っている方もいるかもしれないけれども、そういうことを含めて、私は勉強になりました。

それともう一つ、私は、ＪＴＢという会社で地域振興のことをやっているんですけれども、関西はポートアイランドがありますよね。大阪港もあります。あそこまで行くのにプラス１日かかるんですね。横浜港はあと１日半から２日かかるんですよ。だから、地政学的には、博多というのは間違いなく日本の玄関なんです。その最高のところがアイランドシティなんですね。喫水が１４メーター。来年クルーズ客船でボイジャーという１４万トンが入るんですね、今の倍ぐらいの船です。２０万トンも入ってほしいと思うし、コンテナだって２０万トンが入ってほしい。そうすると、ここしかないんですね。関門橋を越えるのもどうにもなりません、あそこは怖いところですし。こう回ると、今言ったように横浜は２日間かかると。日本を決めるのはここであるということも言えると思うんで、そういうことも情報発信力で、マスコミの方々にも、ほんとうにマスコミの人は優秀ですから、どんどん発信して、番組で話してもらって、ぜひ明るく、夢ということでやっていきたいなと思います。以上です。

【出口委員長】　大変元気の出るご意見、ありがとうございます。

続けて、安藤委員、よろしいでしょうか。

【安藤委員】　アイランドシティを管轄しています、地元の署長の安藤ですけれども、委員さん１７名おられて、私だけ警察という立場で異質なんですけれども、ちょうど、平成２０年から２年間、県警から福岡市のほうに派遣されまして、安全安心に携わる仕事をしました。非常に縁があるなと。まさかここで松本局長とお会いしようとは私は思いませんでしたけれども。

未来を語る、都市の発展、先ほど話がありましたように、人、物、金が非常に激しく動く。私は治安の関係で考えますけれども、そこでは犯罪がどうしても増えてくる。あるいは事故――いろいろな事故がありますけれども、交通事故とかいろいろな事故がありますから、そっちのほうで負の部分で考えますけれども、今、アイランドシティの治安情勢は非常にようございます。そう言いながら、３月５日に、ご案内のとおり、九電会長宅に対する爆弾の投てき事件があったと。異質な事件でありますけれども、ああいう被害に遭う方も、滅多にはないけれどもある。

交通アクセスとかいろいろな問題もあって、ちょっと関心があるのが、さっきバスの中でお聞きしましたけれども、都市高速が延伸して、アイランドシティまで入ってくるとい

うことです。何かあったときには、やはり迅速に対応しなければいかんということで、交通の問題でちょっとお聞きしますけれども、アイランドシティに都市高が入ってくるんですよね。そのほかのアクセスというのはバスですかね。たしか昔、西鉄のかしいかえん、あの付近に駅をつくって、それからアイランドシティまで延伸させてという話がありましたけれども、あれはもう立ち消えになったんでしょうかね。それを１点お聞きしたいんですけれども。

【出口委員長】　　公共交通の現在の計画についてのご質問です。

【港湾局（財津）】　　鉄道関係でございますけれども、委員ご指摘のように、香椎のほうからアイランドの中央公園のところまで結ぶ鉄軌道の計画がございました。これについては、アイランドシティの整備事業とこども病院について検証・検討が行われまして、その中で、中長期的な視点からもう一度見ましょうということで、今ちょっと止まっている状態でございます。

【安藤委員】　　わかりました。

それから、最後に１点だけ、先ほど工事現場を見てまいりましたけれども、いろいろな業者の方が入っておられまして、作業中でありました。今、暴力団の排除というのが県警の最重点目標でありまして、いろいろな業界に暴力団が入り込んで、資金獲得ということでやっております。そういう意味で、暴力団が介入してアイランドシティという名前が出ると、非常にイメージがダウンしますので、そういうことがないように、我々も情報をよくつかんでおきますけれども、委員の皆さん、あるいは関係者の皆さんで、そういう話があるならば、ぜひ東警察署のほうに通報願いたいと。まして、先ほどお話ししましたけれども、ああいう大きな爆弾事件がないように、犯罪の起きにくい社会づくりを推進してまいりたい。これは以後のフォーラムでまたお話ししたいと思います。以上でございます。

【出口委員長】　　ありがとうございます。これはアイランドシティの新しいイメージを打ち出す上でも、非常に重要だと思います。折角良いイメージを育てても、ちょっとした事故や犯罪で、また振り出しに戻ってしまうということもありますので、その点も踏まえて、まちづくりに取り組んでいく方法を、ご教示いただければと思います。よろしくお願いします。

そうしましたら、トコ委員と長沼委員にご発言いただいてよろしいでしょうか。

【トコ委員】　　今日、アイランドシティに視察に行ってまいりまして、２時間時間がとってあったので、そんなにかからないだろうと思っておりましたら、それでも足りないく

らいの、１０分押すぐらいの時間がかかりました。今までアイランドシティは、私は手前の公園のあたりまでは行ったことがあったので、それよりちょっと広いぐらいと思っておりましたら、とてつもない広さでした。

そして、私たちがほんとうに市民として知らなかったなあと思ったのが、港づくりエリアのほうのコンテナのふ頭です。今日は３００メートルある船が着いておりまして、１４万トンという大きいコンテナがぶんぶんぶんぶん上げおろしをされていて、聞いたら、コンテナの中にはハーゲンダッツのアイスクリームが入っていると。へえ、そんなものが運ばれているんだと。そして、ここからまた、ヨーロッパに行ったり、アメリカに行ったりするんだというのを聞いて、さっき海老井委員がおっしゃっていましたけれども、子供たちにこの上げおろしを見せたいなと母親として思いました。ほんとうにつながっているんだ、物は世界からやってきて、博多からまた積まれていくんだというような、そんなことを見せてあげられたらいいなあと思いました。

あと、とにかくタワーマンションの上に上がりましたら、とてつもない更地がまちづくりエリアのほうには広がっておりまして、この辺が私たちの今回の未来フォーラムで、何かわくわくするような、甲斐委員のおっしゃったみたいな、例えば医療に特定したゾーンはどうなんだとか、いろいろな分野からの話ができる一員に入れて、ものすごくわくわくしています。

それと、お住まいになっていらっしゃる村田委員がおっしゃっていたネガティブイメージのことなんですけれども、私はもう３０年近く福岡に住んでおりまして、このアイランドシティの最初からいろいろな経緯を見てきました。このたびこども病院が、オープンな討論を経て、あそこに建設をすると完全に決まったということで、もういいんじゃないかと市民の一人としては呪縛が解けたような気持ちがして、今回アイランドシティも見にまいりました。多分、皆さんもそうだと思います。こんなもったいない、立派な土地があるんだから、これが博多、福岡のランドマークになるような、すてきな場所になったらいいなあという思いを今日はものすごく高めてまいりました。

あと、一つだけ残念だったのが、若い町だなということですね。ＤＶＤなんか拝見したんですけれども、家族で暮らすとか、子供を育てるということがとっても前面に出されていましたけれども、今、そういうふうな家族形態で暮らしているというのは３０％もいるかいないかで、世帯の大半はひとり暮らしになっております。なので、これからそういうひとり暮らしの方たちも入れていくようなまちづくりじゃないと町として完全なものには

ならない。町はとてもすてきだったんですけれども、私はひとり暮らしをしているので、はあーん、家族ですかみたいな、ちょっと疎外感を感じてしまいまして。こういう私みたいなのも入れて町なんですね。今日いらっしゃっている方も家族と暮らしていらっしゃる方というのは、例えば単身赴任だとか、子供は独立して、もう夫婦だけになったとか、そういう部分の世帯のことも考えた、今あいている、このあたりの工区のプランの一つに入れていただけると、町として完成されるのかなあなんて思いました。

【出口委員長】　　大変貴重なご意見、どうもありがとうございました。

よろしいですか。はい、どうぞ。

【村田委員】　　ひとり暮らしの人とか、ある程度ご老人の方とか、引退された方とか、そういう人たちについて、確かに僕たちの自治会でも、会長の僕が３５歳で、副会長が３６歳で、みんな三十五、六ばっかりなんですよね。そういう中でものを決めていくと、お年寄りの意見を軽視してしまう事になりがちなんです。そこを何とかうまく図っていこうとういことは、実際に僕たちの課題として自治会レベルでもやっております。

【出口委員長】　　ありがとうございます。

日本は戦後、大阪、名古屋、東京など各地の郊外にニュータウンをつくってきましたが、今、そうしたニュータウンで一気に高齢化が進み、小学校が廃校になるという傾向にあります。一見、同じ世代の人たちが住んでいると安定しているように見えますが、実は長期的に見ると不安定だったりすることもあります。様々な世代とタイプの方々が住んでいるのが、実は、一見不安定に見えるのだけれども、安定した地域社会だったりします。そういう議論が、既にアイランドでスタートしてもおかしくない時期に来ていますね。これは第２回目になるか、あるいは第４回目になるかもしれませんが、皆さんからご意見をいただき、議論させていただきたいと思います。

そうしましたら、長沼委員、お願いします。

【長沼委員】　　青年会議所の長沼でございます。

我々ＪＣにおきまして、国内外からの集客をもっと推進していくために、さまざまなお祭り、イベントを起こしていこうというようなことで、３年ほど前になりますけれども、中洲でジャズのイベントをさせていただくようになりました。これは中洲が、やはり風俗的なイメージがある、昔の中洲はよかったんだというお話を聞く中で、ジャズという音楽を通したまちづくり、そして、なおかつ国内外から来ていただける仕組みをつくっていこうということで、今年また３回目を迎えさせていただくんですけれども、その流れにおき

まして、昨年地域の皆様のご協力がありまして、ツール・ド・フクオカを実行するようになりました。

これは一つに、先ほどアイランドシティは負の遺産なんだというようなお話がある中で、ただ、我々は照葉小学校で食育の授業をさせていただく中で、こんなすばらしい学校は日本においても珍しい学校じゃないかと。そして、このアイランドシティの中央公園、これもまた、見る人を感動させる公園じゃなかろうかというようなこともありまして、アイランドシティを中心としたツール・ド・フクオカを開かせていただきました。この資料にも載っていますけれども、これは韓国の釜山からもカメリアという船で８０名を超える方々がそれぞれ自転車を積んで福岡まで来られました。

そのような活動をする中で、アイランドシティってこんなにすばらしいところなんだというお話を、韓国の方も含め、多くの参加者の方々から聞きました。そして、照葉のまちづくりもすごくすばらしいものだと思いますし、また、今後こども病院がつくられる中で、これについては、ぜひとも、ほんとうにアジアから子供たちが来れる病院、難しい病気だけれども、福岡のこども病院に行ったら治るんだよというようなアジアを代表するこども病院をつくるべきだと私は思っております。

そんな中で、この計画によりますと、新産業研究開発ゾーンというものもございますし、その辺のイメージがまだちょっと私もございませんけれども、いずれにしましても、このアイランドシティを福岡の今のどこの地域よりも先端を行っているんだということで、小学校であったり、また病院であったり、また住宅のまちづくりであったりというモデルをつくるべく、今後も開発していくべきだと。CO_2のゼロ街区も非常にすばらしいものだと思いますし、よその地域よりも先端を行く、アジアの中でも、まちづくりに関してはリーダーですばらしいなと言われるようなものをつくっていくべきかなというふうに思っております。

この港づくりエリアの部分に関しましては、近くでいくと釜山の港には逆立ちしてもかなわないんでしょうけれども、その中でも、まだ点在しているそれぞれのふ頭もございますし、それらを集積できるものなのかだとか、さまざまな検証をしていくべきかなというふうに思っております。以上です。

【出口委員長】　　どうもありがとうございました。

幾つか論点をいただきました。ツール・ド・フクオカのイベントをされているということで、そのツール・ド・フクオカも含め、アイランドでは住民の方々が中心になり、ある

いはＮＰＯの方々が中心になり、いろいろなイベントが実施されています。ですが、そういうイベントや活動の相互に連携し、まとまって大きな力になっていくようなコーディネートが未だ不十分ではないかなという印象が私にはあります。是非、そうした様々なイベントの相互連携を深め、相乗効果を上げていくような組織や拠点が欲しいですね。

その点も課題と思いますし、こども病院も移転するという意思決定を市でされましたが、つくるのでしたら、やはり世界一のこども病院をつくっていただきたいという思いが我々にはございます。ただ、こども病院という施設単体ではなかなか難しい部分があるので、そのためには、それをサポートしていく機能や施設が周辺に立地し、初めて世界一のこども病院になっていくのではないのかと思います。そうした点も次回以降、ご協議いただければと思っております。

ちょっと予定の時間を過ぎました。いただいたご意見は事務局できちんと整理をしていただきたいと思います。本日は、今後このフォーラムを進めていく上での課題やキーワードを挙げていただいたと思います。

次回、都市機能等についてをテーマに挙げ、現状の説明をしていただいた後に、ご協議いただきますが、都市機能の中でも、居住環境の観点と、就業人口を増やし、企業誘致を進めていく観点と、大きく二つの観点があると思います。居住環境の部分に関しては、既に４，３００人の方が住み始め、マネジメントが始まっていますので、地域にうまくコミュニティーを育てていくような観点や課題がいろいろ見え始めてきました。課題を改善していく観点が必要だということですが、その点はまた、改めて３回目以降に居住者の意見をご紹介していただく機会があると思いますので、そのときに協議させていただければと思います。どちらかというと、第２回目の都市機能については、就業人口や企業誘致の観点を中心に皆様にご意見を出していただくのがよろしいかと思います。事務局もよろしいですか。少し分けて考えた方がよろしいかと思います。

それともう一つは、港の地区と都市的な土地利用のまちづくり地区とを一本の道路線で完全に区分けして考えているのはいかがなものかというご意見がありました。二つをうまく調和させたり、あるいは港地区をまちづくりに活かしていく知恵が必要ではないかというご指摘です。そういった観点は今までは恐らくなかったのではないでしょうか。私が知っている限りでは、港地区は、まちづくりの観点からあまり議論されてこなかった気がします。それも今回のフォーラムの新しい観点ではないかと思います。３回目に是非ご議論いただきたいと思っております。

【伊東委員】　　済みません、飛行機の関係で……。

【出口委員長】　　どうも申し訳ありません。ありがとうございました。また、次回以降、是非よろしくお願いいたします。

また、人工島という名称でいつまでも呼ばれているというご指摘が住民の方からありました。これは新たな地域のブランドやイメージづくりにつながる課題ですが、これまでも市のご担当の方が一生懸命情報発信にご尽力されてきたと思いますが、区役所や市役所の内部から情報発信するだけでは不十分な部分もあります。地元が中心になり、現場に居住環境の良さを情報発信する場が必要ではないのかと私は思います。

私は、現在、千葉県柏市の柏の葉という地区に勤めていますが、ここも新興の住宅地で、アイランドシティと同じような課題を持っており、東大、千葉大、柏市、ディベロッパーなどが一緒になり、アーバンデザインセンターという非常に良い施設をつくっております。ここは情報発信機能を強化する役割も持っており、もし、機会があれば、そういう事例も紹介させていただきたいと思います。アイランドシティに情報発信やまちづくりの拠点機能を持つ施設をつくっていくことも、この場でご協議いただければと思いますので、よろしくお願いいたします。

時間のほうもオーバーしてしまいましたが、事務局から、何か連絡事項等ございますか。

【事務局（谷口）】　　次回会議でございますが、８月２０日１時半から、会場はこの１５階講堂を予定しておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

【出口委員長】　　それでは、これをもちまして、第１回目のアイランドシティ未来フォーラムを閉会させていただきます。

本日は長時間にわたり、本当にありがとうございました。

―― 了 ――